

リンダ フィッツジェラルド アイルランド出身の元カトリック信者 (4/4)

説明： ようやく

イスラームを受け入れたリンダは、それに至るまでの苦悩と内的葛藤について語ります。

よりリンダ フィッツジェラルド

掲載日時 19 May 2014 - 編集日時 18 May 2014

カテゴリ： [記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [女性](#)

改宗

2週間後、私はダアワ センターを訪れていました。私は酷く怯えていて、自分が何か間違ったことを言ってしまうか怖れていました。友人のハーリドと彼の妻が私を連れてきたのです。とても感情的になった一日でした。最後には、私たち皆が目に涙を浮かべていました。私は帰途の車の中でずっと泣き続けました。

依然として、物事は思ったとおりに行きませんでした。ライフスタイルの変更に伴い、私は完全なテレビ中毒者になってしまっていました。私の人生は礼拝、そして夜のテレビを中心に回っていたのです。私はそのことに満足していませんでしたが、それを変えるには怠けきっていました。イスラームの本を読もうともしましたが、何も受けつけなくなってしまっていました。私に関する噂話が病院内を駆け巡っており、それが私自身に戻ってきていました。私は自分の人生が他人の好奇心の対象となること、また陰口や噂話の矛先になることが大嫌いだったため、そのことは私を非常に動揺させました。ある晩、職場から帰宅した私は、もうそれ以上耐えることが出来ないと感じていました。帰宅したらテレビを見ながら夜を過ごし、誰とも会わず話もしないことはとても嫌でしたし、週末は悪夢のようでした。週末中誰とも会わないこともありました。私は喪失感と孤独感で一杯でした。イシャー礼拝の時間になりましたが、何もする気が起きませんでした。そんな気持ちになったのは初めてでしたし、そのことにとても困惑しました。私は2時間通して泣き続けました。

翌日、私の両目は腫れ上がっており、その日もたびたび泣いていました。ハーリドは何かあったのか何度も尋ねましたが、私はとても恥じ入っていたため最初は何も言い出すことが出来ませんでした。ただ、礼拝は行わなければならないことを知っていたのでそれは欠かしませんでした。その後、彼と話が出来るようになると、彼は時には彼自身もそう感じていること、そしてそのことについて恥じ入ったり、惨めに感じたりすることはないと慰めてくれました。彼によると、私に必要なのはライフスタイルを変えることで、テニスやショッピングをしたり、読書をしたりすれば良いということでした。私には話すことの出来る相手、そして孤独感を感じないことが先決だったので、彼とはまだ口論していました。

その夜、帰宅した私は喪失感に苛まれ、もうこれ以上この状態を続けることは無理だと感じていました。礼拝後、額づいて必死にこう祈りました。「神さま、お願いします。私にあなたを見失わせないでください。お願いだから私にあなたを見失わせないでください。」私は起き上がって腰掛け、クルアーン後半の短い章句を開き、アッ=タカースル章を見つけ、読み始めました。それを読んだ後、私は未だに自分が愛着を感じているテレビを始め、人々

が自分のことをどう捉えているか気にしたりすることなどをすべて止めてしまわなければならないと感じました。そうすることを学ばなければならないのです。すると自分の悩み事がすべて、あたかも背中からふわりと浮かび上がって離れていくような感覚がしました。

翌朝のファジュル礼拝で祈りを終えて祈願をしていると、私は両手を顔まで上げてそうしようという気持ちになりました。人々がそうしているのを見たことはありますが、それが何のためなのかは理解していませんでした。私は両手を上げて神に祈り、自分が過去の悪習慣を棄てることが出来るよう、そして努力してより良い人物になれるよう祈りました。それから両手を顔の位置まで上げると、ひりひりするような感覚と、ずっと感じたことのなかったような安心感を感じました。少しでも動くとその感覚がどこかに行ってしまうことを恐れましたが、それはどこかに行ったりはしませんでした。

その日、職場でコンピュータ部門のアンワールが私を訪ねてきました。私自身は彼とは一度も会ったことはありませんでしたが、彼は私のことを耳にしていました。彼は私にラージヒー モスクで金曜日に英語のレクチャーがあることを教えてくれました。私は金曜日、そこに行くことに決めました。その週、私はテレビを全く点けず、テニスをし、信頼の置ける運転手にモスクへ連れていってくれるよう頼みました。

金曜の朝、私は非常に緊張し、最後の瞬間になって行きたくなくなっていました。もしも間違えたモスクに行ってしまったらどうしようとか、不適切なことをしてしまったらどうしようという思いが頭をもたげていました。扉を出る直前、私は神に祈ってお導きと万事順調に行くよう頼みました。結果的にすべては順調に行きました。私はサウジに駐在するスリランカ出身のサミール一家 私の新しい家族 と出会うことができ、自宅に私を招待してくれた彼らは、まるで私が家族の一員かのようにふるまってくれました。神が彼らを祝福し、良き報奨をお与えになりますように。彼らとの出会いをお授けになった神に、私は毎日感謝しています。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/117>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.